

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	0473100527
法人名	有限会社 konno
事業所名	グループホーム たんぼぼ
所在地 (電話番号)	遠田郡美里町北浦字米谷73-3 (電 話) 0229-35-1611
評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会
所在地	仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階
訪問調査日	平成 21年 2月 18日

【情報提供票より】(平成 21年 2月 2日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 17年 12月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	11 人	常勤 3人, 非常勤 8人, 常勤換算	6.7人

(2)建物概要

建物形態	併設 / ○単独	○新築 / 改築
建物構造	木造	造り
	1階建ての	1階 ~ 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	10,000 円	
敷 金	有()	○ 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	○ 有(100,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	○ 有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1,500 円		

(4)利用者の概要(2月 2日現在)

	9名	男性	3名	女性	6名
要介護1	2名	要介護2	2名		
要介護3	2名	要介護4	2名		
要介護5	1名	要支援2			
年齢	平均 86.3歳	最低	81歳	最高	94歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	横山医院、古川民主医院、おおみ歯科医院
---------	---------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

本ホームは、国道108号バイパスから入った所にあり、車の流れや地域の花ロード祭り、JR線SL列車の様子等がホーム間やウッドデッキから見る事ができる等、季節感、生活感が感じられる場所に位置している。管理者(兼経営者)は、10数年の介護職務の経験から、一人暮らしの方のお役に立ちたいと、平成17年起業し、事業目的を「利用者の意思及び人格を尊重し、常に利用者の立場に立ったサービスの提供」としている。管理者、副主任の姉妹、家族を核として、入居者、職員が擬似家族的な環境作りを目指したケアを重視している。地域の介護サービスの拠点としての役割を目指して、昨年は近くに通所介護、訪問介護、居宅介護支援、有料老人ホームの各事業を立ち上げ、総合介護サービス事業として、サービスの質の向上に取組中である。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回改善課題の、①職員を育てる取り組みは、年2回のホーム内勉強会、外部研修派遣等でのスキルアップに努め、着実に改善が図られている。②運営推進会議を活かした取り組み、③災害対策は、デイサービス等への事業拡大途上の中で、社全体のサービスの質統一、レベルアップに重点を置いた事もあってか、今一歩で、今後の充実に期待する。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>今回の自己評価は、すべての職員に自己評価票を配布して作成してもらい、それを管理者がまとめている。前回外部評価での要改善への取り組みは緒についたばかりのように見られるので更なる努力を期待する。又、日々の職員ミーティングで各入居者の状態を話し合い、改善可能な事は即実施している。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>家族代表、町健康福祉課(地域包括支援センター)主任ケアマネージャー、地区民生委員、家族を構成メンバーに、概ね4ヶ月に1回開催している。家族会が設置されており、その中で出された意見、要望が出され、改善に結びつく等双方向な会議となっている。本会議が地域とホームとの関係強化の重要な手段の一つであると考えているので、更なる改善、充実に図って頂きたい。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>ホーム行事等をカー写真入りで掲載した「たんぼぼ便り」を毎月家族に送付し、様子を伝えている。家族来訪時や必要時に、暮らしぶりや健康状態等を出来るだけ丁寧に知らせよう努めている。又、家族会を年1回、ホーム管理者、職員を交えず開催し、個人では言えない家族からの意見、苦情等を集約し、代表者がホームに伝えるようにし、家族来訪時の声かけ等での要望に対応する等、サービス質の向上に取り組めたとしている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域との交流を大切に、年2回ホーム独自のイベントとして、夏祭り、ひな祭りを開催し、近隣の方、家族の方に案内状を送付し、参加頂いている。町内会にも加入済みで、町内会行事に参加し、交流を深めている。又、ホームの敬老会で、中学生が踊りを演じたり、職場体験の受け入れ、紙芝居等のボランティア慰問等、地域との交流が広がっている。</p>

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設時に作りあげた4項目のホーム独自理念①家庭的な生活環境②残存能力を生かした生活③尊厳ある生活④楽しみのある生活に加えて、昨年外部評価でお願いした「地域との関係性強化」について見直しを行い新たに5項目目の理念として「⑤地域社会とのつながりある生活」を追加している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	つくりあげた理念は、ホームの運営方針と共に、玄関、事務所の常に目の届く所に掲示し、全体会にて復唱し、共有化している。管理者は、日々の職員とのミーティングにおいて、理念の具体的な実践について話し合いを行っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域との交流を大切に、年2回ホーム独自のイベントとして夏祭り、ひな祭りを開催し、近隣、家族の方に案内状を送付し参加頂いている。町内会に加入し、行事にも参加し交流を深めている。又、ホーム敬老会で、中学生が踊りを演じたり、職場体験の受け入れ、紙芝居ボランティア来訪等、地域との交流が広がっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の自己評価は、すべての職員に自己評価票を配布して作成してもらい、それを管理者がまとめている。前回外部評価での要改善への取り組みは緒についたばかりのように見られるので更なる努力を期待する。又、日々の職員ミーティングで各入居者の状態を話し合い、改善可能な事は即実施している。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族代表、町健康福祉課(地域包括支援センター)主任ケアマネジャー、地区民生委員、家族を構成メンバーに、概ね4ヶ月に1回開催している。家族会が設置されており、その中で出された意見、要望が出され、改善に結びつく等双方向な会議となっているが、開催周期がホームの都合で思い通りの開催が難しいとしている。	○	同法人が、昨年同じ北浦地区に通所介護、有料老人ホーム、訪問介護事業所などを開設した事もあり、開催が定期的に行えなかったホーム側の事情もあると思われるが、今後は2ヶ月に1回の推進会議の開催を行い、サービスの質の向上につなげて頂きたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	健康福祉課の主任ケアマネージャーが運営推進会議の構成メンバーであり、日ごろの交流が図られている。又、町主催の研修会等には職員をできるだけ参加させ、レベルアップを図りたいとしており、期待したい。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	クリスマスや外食ツアーの行事等をカラー写真入りで掲載した「たんぽぽ便り」を毎月家族に送付し、入居者の様子を伝えている。家族来訪時や必要時に、暮らしぶりや往診結果等の健康状態等を出来るだけ丁寧に知らせよう努めている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を年1回、ホーム管理者、職員を交えず開催し、個人では言えない家族からの意見、苦情等を集約し、代表者がホームに言えるよう工夫している。家族会要望に対応する等のサービスの質の向上に取り組めたとしている。前回外部評価での要望である第三者委員を区長にお願いし了解頂いている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	入居者と職員との馴染みの関係を重視し、担当制を採ってはいるが、誰でも入居者の状態が把握できるよう昼食後の職員ミーティングでの情報交換や普段での家族的雰囲気醸成に努め、影響はないとしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年2回定期的に、おむつのあて方等の介護方法実務を中心にホーム内での勉強会を実施し、スキルアップに努めている。又、県鹿島台研修センター等への外部研修を社から派遣する機会を作っている。近隣で、デイサービス、ヘルパー派遣等を始めており、今後、社全体での研修会を実施し、サービスの質の統一、向上を図りたいとしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域での福祉関係事業経営者の連絡会があり、参加している(今年はまだ未開催)。近隣のグループホームでの研修会には数名が参加した。外部研修時、個々には交流があるが、社全体での同業者との交流は今後の課題としている。	○	同業者との相互訪問、研修や勉強会などの交流活動を行う事は、サービスの質の向上を図る上での取り組み策のひとつと考えられる。管理者が意欲を持って、職員のスキルアップ、社内事業でのサービスの質の統一、向上を図りたいとしているので、職員を含む社全体としての同業者との計画的な交流の実現をお願いしたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	介護老人保険施設からの入居者が多く、利用開始前には家族と話し合いながら、本人に合った介護計画の調整を行っている。また、徐々に馴染めるよう、半日程度の見学も行っている。入居後には、声かけに注意しながら、ホームの雰囲気に馴染めるよう努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、地元の正月の行事、飾り付け方法、料理方法など学ぶ事も多いとしており、同じ目線での気付きができるよう心掛けている。居間には、入居者の愛称で呼びかけた全員の方の暮らしぶりを詠った「たんぽぽどんぼん節」が張り出されており、共に過ごし、支え合う関係が築かれていると感じた。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いや意向の把握には、ケアマネジャーが使用するパソコン方式のソフトウェアで行っている。意向の把握が難しい入居者には、声かけ等を行い、表情、身振りから把握するよう努めている。休みがちな方には、リハビリを兼ね、歩行器の使用の誘いかけを行っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	管理者が計画作成担当者である。介護は担当制を採っており、日ごろの関りの中での思いの把握や入居者昼食後の全職員による「ちょっとミーティング」での気付き、アイデア、意見交換を行い、入居者個々に合った計画作成に反映している。又、往診して頂く医師の意見も活かしている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	本人、家族からの意見の把握及び日々のモニタリング、気付き等から随時意見、情報を出し合い、月1回入居者全員のアセスメントを行っている。変化が見られない場合の、介護計画の見直しは定期的には3ヶ月毎に行っている。見直し結果は家族に説明し、話し合っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者や家族の要望、状況に応じての通院、正月、お盆、お彼岸での自宅訪問、墓参り等の必要な外出、外泊支援に柔軟に対応し、一人ひとりの満足度を高めるよう努めている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時の本人、家族の希望を重視し、希望するかかりつけ医への受診が行えるよう支援している。歯科医の口腔ケア往診、協力医院等による月一度の往診、定期健康診断などきめこまかい連携、配慮がなされており、調査当日も入居者の体調変化に対応して、短時間で医師の往診が行われていた。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	職員として看護師を配置し、医療連携体制加算を設定している。本人、家族、医師を交えてのターミナルの迎え方について、本人の状況変化、対応等を随時話し合い、出来るかぎり本人、家族意向に添えるよう、本人の状況変化に対応したケアを随時話し合っている。ターミナル(看取り)に関する「意思確認書」を作成し、ホームで対応できるケアの説明を行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	日々のミーティングで入居者の尊厳を損なわないケアを行うよう話し合い、お互いに確認、注意しあっている。本人の呼ばれたい呼び方を聞き出し、ゆったりと話しかけ、入居者も笑顔で応えていた。個人記録等は居間とは別室の事務室に保管している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームとしての食事時間やおやつ時間等の一日の流れがあり、誘いかけはするが、管理者がアピール点としているように、入居者が体調や趣味をいかし、在宅同様暮らしていける支援に努めている。個人毎に自然と一日の生活のペースが決まり、体で感じて、洗濯物たたみ、食事準備、畑作業等を行って頂いているとしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材切り、食器拭き、椅子に座っても出来る作業など、各人が持てる力を発揮できる作業をお願いし、職員と一緒に声がけしながら、行っていた。調査当日の昼食には、地元料理の「すっぽこ汁」が出され、作り方、味付けの話などで盛り上がり、楽しみながらの食事であった。代替食の提供も行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間、順番等を職員が調整することはあるが、入居者の希望にあわせ、毎日入浴できるようにしている。入浴拒否をする方もいるが、誘いのタイミングや人を代えての声がけ、足浴、シャワー浴などの工夫を行い、入浴が楽しくなるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	月に一度、何らかのイベントを行い、楽しみごと、気晴らし支援を行っている。外食でグローバルバキング店にでかけ、入居者が料理を選ぶ楽しみを感じて頂いたり、買い物支援を行っている。同行する事で、職員のリフレッシュにもなっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	入居者の希望をうかがい、散歩などの誘いかけを行いながら、ウッドデッキで国道を通る車や列車の見物をしたり、戸外環境を感じて頂いたりしている。又、希望者には、お花見、コスモス見物等の遠出を楽しんで頂いている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室や日中玄関に施錠することはなく、自由に戸外に出られるようにしており、見守りで対応している。散歩等で外出しそうな場合は制止せず、一緒に出かけるようにしている。開設以来、徘徊でのトラブルはない。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを作成し、年1回9月、消防の立会いで、防火訓練(避難訓練及び通報訓練など)を実施しているが、夜間を想定した避難訓練は実施されていない。ウッドデッキからの避難用として、取り外し式のスロープを用意している。非常用食糧、備品として缶詰等を準備している。	○	運営規程では年2回の防火訓練を行うよう規程されているので、早急に体制強化を図り、年2回の防火訓練(うち、1回は夜間を想定した避難訓練の実施)を実施して頂きたい。現在、地域との交流強化が進んでいるので、災害対策面での地域の方との相互協力体制の検討もお願いしたい。又、非常用食糧、備品の備蓄充実もお願いしたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事メニューについて、管理者の知り合いの管理栄養士に依頼し、指導、助言を頂いている。食事は個人差があるので、本人の適量となるようにしており、体重計測を月1回実施している。水分摂取量をチェックし、スポーツ飲料を常備し、必要な水分摂取が行えるよう注意している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物全体に自然換気システムを採用しており、共用空間、居室とも臭いなどが感じられない。又、オール電化で、床暖房方式を採用、加湿器も用意しており、快適な環境である。居間には、入居者が季節感を感じられるよう、お雛様が飾られていたり、「長寿の心得」ののれんが掛けられていたり、工夫している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	一人ひとりが家族の協力により、使い慣れた家具や小物等を持ちこんでおり、壁には誕生日や行事類の写真が飾られるなど、職員の協力で居心地良く過ごせるよう、配慮している。		